



まちのわだい ～カメラスケッチ～



わくわく園でもちつき

一生懸命「ぺったん、ぺったん」

わくわく園のもちつき会が、昨年12月5日に開かれました。父母や町商工会青年部などが手本を見せてから園児が挑戦し、小さな杵(きね)を持って「ぺったん、ぺったん」と元気良くもちをつきました。見ていたほかの子どもたちからは「よいしょ、よいしょ」などと声援が飛んでいました。出来上がったもちは、きなこもちや雑煮などにし、子どもたちは「おいしいね」と言いながら満足した様子で食べていました。



スポセンオープン記念 ソフトバレーで交流



平成31年4月にオープンした町スポーツセンターの記念イベントとして、ソフトバレー交流大会が、昨年12月8日に開かれ、約110人が出場し、大いに盛り上がりました。大会には、ジュニアの部4チーム、一般の部14チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。会場では、クライミング体験や体力測定コンテストなどのイベントも同時開催され、握力や背筋力の最高値を出した優勝者や大会参加チームに豪華景品がプレゼントされました。

津別町を拠点に活動するフルートとギターのユニット「ホラネロ」によるホラネロライブが昨年12月14日に町公民館で行われ、会場いっばいに美しい音色が響き渡りました。

ホラネロライブを開催



今回は、「ホラネロ音探レプロジェクト」として、訓小スクールバンドと一緒に「開拓」と「五穀豊穡」をテーマに作った新曲を披露したほか、会場には実行委員会で手作りした「ヒンメリ(わらで作った装飾品)」が飾られ、空間全体で観客を楽しませていました。

わくわく園とひだまりでクリスマス会



わくわく園のクリスマス会が昨年12月19日に、ひだまりのクリスマス会が20日にそれぞれ開かれました。わくわく園には、サンタがやって来て園児一人一人へプレゼントを贈り、笑顔があふれるクリスマス会となりました。ひだまりでは、サンドイッチやカボチャのポターージュなどを親子で食べ「おいしい」などと楽しんでいました。

訓高生徒 スマート農業を学ぶ

訓子府高校3年生7人が、訓高独自に設定された科目「北海道の自然」で、昨年11月19日にホクレン訓子府実証農場で行われているICT技術を活用したスマート農業の実現に向けての取り組みやさまざまな実証実験を学びました。



この授業は、町の基幹産業である農業の未来を知ることと、農業の社会的な役割について学び、さまざまな観点から生活の質の向上を図るため、行われています。生徒たちは、ドローンの操縦や自動走行するトラクターの試乗体験など、真剣な様子で取り組んでいました。

野菜&雑貨フェス in 訓子府を開催



手作り雑貨や野菜を集めた一日限りの「野菜&雑貨フェス in 訓子府」が昨年11月23日に開催されました。布の小物やパッチワーク、ヒンメリキットをはじめ、町内の農家の野菜、菅野養蜂場、日の出めん、ミルククラウンなど、店が並び、会場はにぎわいました。また、当日は町内の農業青年団体である4Hクラブの「4Hまつり」も同時開催され、ジャガイモやタマネギ、ニンジンなどが販売され、大勢の方が詰め掛けました。

居小児童 22人

世界一大きな絵を描く



世界中の子どもたちが描いた絵をつなぎ合わせ、一枚の「世界一大きな絵」を作ることを目的としたプロジェクトに参加した居武士小学校の児童たちの絵が完成し、昨年11月27日に記念撮影を行いました。この事業は、バングラデシュで自立支援活動を行っていた女性を通じ、学校に行けず、文字を書いたことも絵を描いたこともない子どもたちに絵を描かせたいと1996年に総勢1万3,000人の子どもたちに絵を描いてもらったことがきっかけで始まりました。居小の児童たちは、訓子府町のキャラクター「めろねっぶ」「たまねっぶ」とカラフルな風船を描きました。完成した絵は、3月5日～6日に東京都大田区総合体育館に展示されます。